

山路開古 （号） 古川柳研究家、隨筆家、小説家。明治二十二年十月十九日靜岡縣生れ、昭和五十一年四月十日歿（一九〇一七）。本名秋原時夫。號一水庵桃花、離々庵蘆洲、鴨立庵。東京帝國大學理學部化學科卒。共立女子大學等で化學教授。初の俳句を高濱虚子、蓮句を根津晋丈、川柳を阪井久良伎の學び、俳誌「ホトトギス」等の執筆。昭和二十七年鴨立庵十九世を繼承。妻秋原あふち（本名ちゆ）、明治二十五年六月十日神奈川縣生れ）と嫁入。

著書に、小説『木葉髮記』（昭和十八年一月八日富山房）、『史篇田類』（昭和十八年十月二十日大岡山書店）、『戰災記』（昭和二十一年十一月二十五日福岡・あひねの社）、隨筆『川柳歳時記』（昭和二十一年十一月一日美和書院）、『羅馬の休日―教師哀歌』（秋原時夫名、昭和二十五年二月十五日大江書院）、『大いなる語り―柳詩的叙述伝』（昭和四十年十月十日佼成出版社）、『古川柳』（昭和四十年十一月二十日岩波書店「岩波新書」）、『異国袖曲』（川辺弘共著、昭和五十二年一月二十日白翰閣「秘志生態風俗選」）等。

